

八 南端の徳寺なりちるなる徳の工は後世に
略す

一 能川館

十二巻の内なり一記は能川小平方とあり
没落の年記詳なりむと申元徳の月と能川
にあり館にあり

一 壇城

仁加保の大邑よりて仁加保と唐皮居位
をこれ一なり今ハ本元より寺行人を
至南所の東北は浮あり諸書に載る城と
城

いふは是なり大徳寺社縁記に云到山
腰而山脈なり徳西川有泉浮ハ十八浮九十
九表を為後系名平丹表にて是を照る
福子系及祠は絶より芭蕉翁の奥に細石
は松崎の知れざりてく泉浮ハうめるが
あといといり古ハ者系那仲飛あそけり
は流飛を

九 迂る能川より河をいふことなり

海士のと海やを能者よりて
と詠ふれりるとそ又古者我入る能國法師の